



第3回 フォーラム in くるめ

2007年 7月 14日(土)・15日(日)

会場：久留米市民会館 (久留米市城南町 16-1 TEL0942-39-2500)
 定員：1300名 (交流会 200名)
 参加費：両日 2500円 一日 1500円 障害者 500円
 [交流会 5000円 障害者 3000円 (14日 18:00~ホテルニューブラザにて)]
 締切：定員になり次第 (下記事務局までお早めにお申し込みください。)

お申し込み方法

別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上、郵送またはファックス、e-mailにて事前にお申し込み下さい。お申し込みの方には、チケットを送付いたします。
 ※会場での支援(移動用車椅子・手話通訳・要約筆記等)・託児(おやつ代込み 500円)が必要な方は事前にお問い合わせください。

お申し込み・お問合せ先

フォーラム in くるめ実行委員会
 830-0071 久留米市安武町武島 468-2
 出会うの場 ポレポレ内
 TEL&FAX: 0942-27-2075
 e-mail:
 h-polepole@ktarn.or.jp

【後援】
 福岡県 福岡県教育委員会 福岡県社会福祉協議会
 久留米市 久留米市教育委員会 久留米市社会福祉協議会
 福岡県知的障害者施設協議会 福岡県身体障害者施設協議会
 (社)福岡県精神科病院協会 福岡県精神保健福祉士協会
 福岡県精神障害者社会復帰施設協議会
 福岡県社会就労センター協議会・福岡県セルフセンター
 久留米市保育所連盟 久留米市医師会 久留米商工会議所
 朝日新聞社 久留米日日新聞社 西日本新聞社
 毎日新聞社 読売新聞西部本社

*駐車場に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

交通アクセス (久留米市民会館)

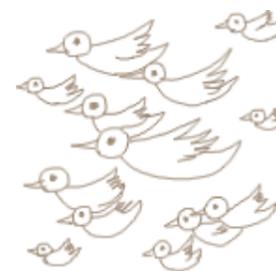


- 西鉄久留米駅よりバスで12分
 - 大学病院行き、大学病院経由高専行きバスに乗り、市民会館バス停下車、徒歩2分
 - 市役所行きバスに乗り、市役所前バス停下車、徒歩4分
- JR久留米駅よりバスで5分
 - 大学病院行き、大学病院経由高専行きバスに乗り、市民会館バス停下車、徒歩2分
 - 市役所行きバスに乗り、市役所前バス停下車、徒歩4分
- JR久留米駅より徒歩で約10分

障害があるからこそ ここで暮らす
 そんなまちにしたい・・・

第3回

フォーラム in くるめ



テーマ「障害者の問題はみんなの問題」

第3回 フォーラム in くるめ

2007

7/14.15

in 久留米市民会館

【お問い合わせ】

フォーラム in くるめ実行委員会事務局
 久留米市安武町武島 468-2
 出会うの場ポレポレ内
 TEL・FAX 0942-27-2075

7月14日(土) 1日目
 9:40~17:00 (受付 9:00~)

海老井悦子福岡県副知事のごあいさつ

- 変容する社会と子どもたち
- 障害者の暮らしは守られていますか
 - 1) 当事者のメッセージ
 - 2) 首長セッション
 - 3) 当事者と厚生労働省

7月15日(日) 2日目
 9:30~15:30 (受付 9:00~)

- これからのまちをつくる
 1. 連携をして新しい支援をつくる
 - 1) 教育
 - 2) 就労
 - 3) 精神
 2. 連携をしてまちをつくる

7月14日(土) 1日目 9:40~17:00

◆海老井悦子福岡県副知事のごあいさつ◆ 9:40~10:00



■変容する社会と子どもたち■ 10:00~12:00

不登校、虐待、ニート、自殺

社会はいつも変化し、人の暮らしも移り変わっていくものですが、私たちが今直面しているのは、これまでの人間の歴史からは異質な、人の育ちや、人と人の関わりといった人の本質を破壊するような社会の「変容」、ゆがみといったものではないでしょうか。その変容を最も受けているのが子どもたちではないかという問題意識から、社会の中で疎外される人達も視野に入れて共生社会のありようを考えていきたいと思えます。

- 野沢 和弘 (全日本手をつなぐ育成会理事・権利擁護委員会委員長)
- 伊原 和人 (厚生労働省 虐待防止対策室長、母子家庭等自立支援室長)
- 富田 伸 (久留米市精神科医師 富田醫院院長)
- 田町 菜穂子 (ファミリー・サポート・センターくるめ ル・パト代表)



・野沢 和弘・ 新聞記者として、若者の引きこもり、いじめ、薬害エイズ、障害者虐待、児童虐待などの現場取材し、報道し続けてきました。そして、全日本手をつなぐ育成会の権利擁護委員長として、障害者の人権を守る活動で大きな役割を果たしてきました。

■障害者の暮らしは守られていますか■ 12:45~17:00

障害者自立支援法は障害者の暮らしを直撃し、福祉サービス提供する障害者福祉施設や事業所の運営に多大な影響を与えています。障害当事者の主張をしっかり受け止めて、市町村に権限と予算がくる自立支援法の時代における福祉行政の方向性について、市民の共通理解をはかり、市民と行政が協働していくきっかけになるようなものにしたいと思えます。

1) 当事者のメッセージ 12:45~14:00

身体障害、知的障害に比べてあまりスポットがあたりなかった障害の方々からの生のメッセージをお聞き下さい。

- 軽度発達障害 大森 佑介
- 精神障害 《劇》
- 中途聴覚障害 北原 知佳
- 医療的ケア

コディネーター 曾根 直樹 (埼玉県東松山市総合福祉エリア施設長)

2) 首長セッション 14:00~15:30

福祉行政の主体者となった市が、どのように税を支援が必要な障害者に使うのか。

障害者福祉計画はどうなっている各市の取り組みと今後を語る。

- 坂本 之輔 (埼玉県東松山市市長) 江藤 守國 (久留米市長)
- 野田 国義 (八女市長) 平安 正知 (小郡市長)
- 村上 文男 (福岡県保健福祉部障害者福祉課 課長)

コディネーター 大森 伸昭 (西日本新聞社 久留米総局長)

3) 当事者と厚生労働省 15:30~17:00

社会福祉基礎構造改革、支援費制度、障害者自立支援法と国の福祉政策の流れを障害当事者の視点から検証し、今後の福祉政策の方向を探る。日本のノーマライゼーションをどう進めるか。

- 藤木 則夫 (厚生労働省 障害保健福祉部企画課長)
- 神山 忠 (岐阜県 特別支援学校教諭 LD 当事者)
- 古川 克介 (NPO 法人 自立生活センター久留米 代表)
- 精神障害の当事者
- コディネーター 曾根 直樹 (埼玉県東松山市総合福祉エリア施設長)



坂本 之輔 (埼玉県東松山市市長)

7月15日(日) 2日目 9:30~15:30



■これからのまちをつくる■

1. 連携をして新しい支援をつくる 9:30~12:30

今後の行政、市民協働の障害者福祉を作っていくために、新しい支援のあり方を提起する。

1) 教育

障害児が育ち、学ぶ (9:30~10:30)

- 神山 忠 (岐阜県 特別支援学校教諭 LD 当事者)
- 中島 正幸 (聖マリア病院 母子総合医療センター 新生児科 医師)
- 金子みゆき (発達障害児の親) 田中 千尋 (医療的ケアの必要な子の親)
- コディネーター 松本 良一 (久留米市教育委員会 指導主事)



神山 忠

2) 就労

障害者が働く (10:30~11:30)

- 寺田 克哉 (㈱リンガーハット 採用部 課長) 精神障害の当事者
- 竹田 桂子 (友愛苑 精神保健福祉士、元 福岡県障害者雇用支援センター ショブコーチ)
- 佐々木 崇 (筑後地区ノーマライゼーション研究会 久留米の身体障害当事者)
- コディネーター 三田 優子 (大阪府立大学 人間社会学部社会福祉学科 准教授)



・三田 優子・

「精神障害をもつ方たちの豊かな才能やパワーにいつも圧倒されます。病いの体験が多くの人を助けていることも事実です。当事者とともに街の中でいろんなことに挑戦したいと思っています。大学で精神保健福祉を教えています。」

3) 精神

精神障害者が地域で働き、地域で暮らす (11:30~12:30)

- 門屋 充郎 (NPO 法人 十勝障がい者支援センター 理事長)
- 児玉 英嗣 (久留米市精神科医師 宮の陣病院院長)
- 坂本 喜教 (久留米の精神障害当事者)
- 磯田 重行 (久留米の精神障害当事者)
- コディネーター 内野 俊郎 (久留米市精神科医師 久留米大学病院)



・門屋 充郎・

精神保健福祉士として、法制度や公的援助が整備されていないことから、精神障害者が地域で暮らせる取り組みを進めてこられました。

2. 連携をしてまちをつくる 13:30~15:30

2日間のフォーラムを集約し、コミュニティの再生にがんばっている方々を招いて、障害者や支援を必要とする子どもや大人が共生するまちづくりを考える。

- 門屋 充郎 (NPO 法人 十勝障がい者支援センター (北海道))
- 中橋 恵美子 (NPO 法人 わははネット (香川県))
- 宮原 信孝 (久留米子育てまちづくり NPO (久留米市))
- 伊藤 宏美、河島 靖憲 (タウンモビリティ (久留米市))
- 井手 英人 (オアシスくるめ (久留米市))

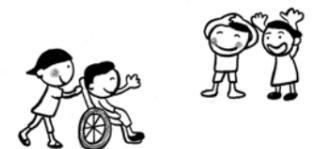
ほか

コディネーター 伊原 和人 (厚生労働省 虐待防止対策室長、母子家庭等自立支援室長)



・中橋 恵美子・

『わはは』は輪母(わはは)からのネーミングです。平成10年に子供を中心とした遊びをしていた育児サークルから、子育て支援のための情報発信を目的とした育児サークル「わはは(輪母)net」が生まれました。」



※ 内容や登壇者に変更が生じる場合もございます。ご了承下さい。